



「性と健康を考える女性専門家の会」勉強会
「**鈕も後悔しない医謝**」を靖撼するために！
～社会薬学が発展すれば、どんな医療が実現するのか～

講 師：宮本法子 東京薬科大学薬学部 社会薬学 教授

日 時：2015年1月24日(土) 18時～20時

会 場：朝日エル会議室 東京都中央区築地 2-12-10
築地MFビル 26号館 5階

参加費：会員 700円 非会員 1,200円 学生 500円

参加申し込み：お名前、ご所属、会員 / 非会員、
および、ご連絡先を明記の上

「性と健康を考える女性専門家の会」事務局まで
メールでお申し込みください。pwesh@ellesnet.co.jp

医療現場では、医療者がどんなにがんばっても医療過誤などが生じ、過失を問われる場合があります。このような不幸な出来事を食い止めることはできないのでしょうか。

医療者や被害者が共に不幸になる裁判ケースから、「あの時こうしていれば防げたかもしれない」、と多くのことを学ぶことができます。

たとえば、じんましんを発症した女の子に、塩化カルシウムを投与するはずが、医師から指示を受けた准看護師が塩化カリウムと聞き間違い、それを静脈注射したために、重篤な障害を負うという事件がありました。裁判では、准看護師と医師の責任を問われましたが、薬剤師の責任を問われることはありませんでした。

しかし、もし薬剤師の一言があれば、この事件を防ぐことができたのではないのでしょうか？

薬剤師が治療のどの段階で関わったら、この患者さんは重度の障害を持たなくても済んだのではないかを検証する「司法薬学」は、社会薬学の一分野です。

お集まりいただいた皆様に、この社会薬学の可能性と魅力を知っていただけたら幸いです。

【講師プロフィール】

東京薬科大学薬学部 社会薬学研究室 教授

【学歴等】北海道士別高等学校卒業

東京薬科大学薬学部卒業

薬剤師免許取得 博士(医学)

【所属学会】日本社会薬学会 会長

日本薬史学会 理事

司法薬学研究会 幹事